



初日の出は・・・2021(令和4)年 旭山記念公園

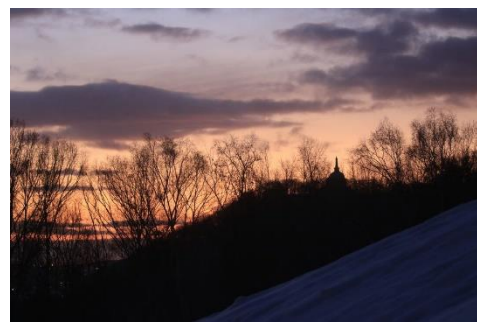
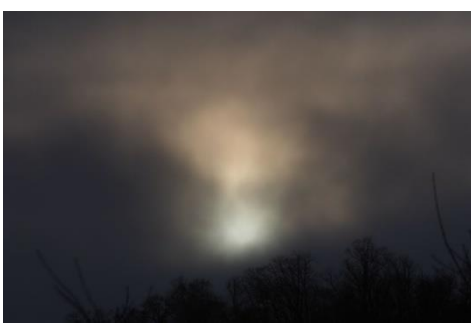
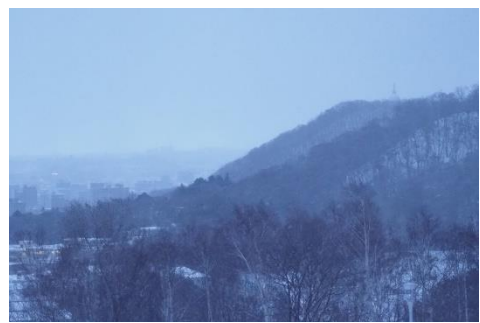
2022(令和4)年、旭山記念公園では初日の出を拝むことはできませんでした。

未明の空は雲に覆われ、ときおり小雪が舞う。6時45分頃に雲が若干薄くなりかけたように見えたが、日の出時刻7時6分頃(下写真左)、南東の空は厚くて白い雲に覆われたまま。太陽の光は雲を透かして突き破ることもなく、その向こうに昇った太陽を想像するのみでした。それでも元旦は300人以上が来園しました。

しかし、7時50分頃、森の家から望む藻岩山の稜線より高く昇った太陽を、ほんのひととき、雲の向こうに見ることができました(下写真中央)。

初日の出というには鈍い太陽の輝きでしたが、なんとか元旦の太陽が見られました。

翌1月2日は朝焼け(下写真右)と日の出が見られましたが、思えば昨年2021年も1月2日は朝日がきれいで、多くの方が日の出を見ていました。鬼に大笑いされますが、来年は初日の出が拝めますように。



旭山都市環境林

「旭山都市環境林」は、旭山記念公園に隣接した約17.5haの林地で、公園内から道が続いています。

「都市環境林」とは、札幌市が都市近郊の森林保全を目的として所有する土地であり、2022年1月現在札幌市内に全部で37箇所、約1730haの「都市環境林」があります。森の家主催の各種観察会でも「旭山都市環境林」内を歩くことがあります。「都市環境林」について詳しくは札幌市HPをご検索ご参照ください。

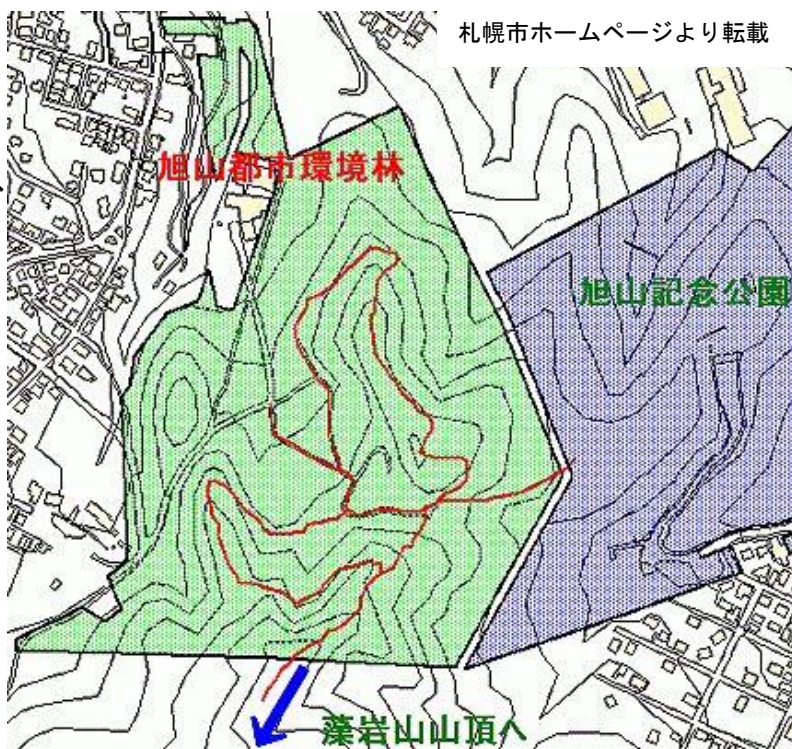
「旭山都市環境林」は、天然記念物である藻岩山にも隣接し、その登山道の迂回ルートとしても利用されています。ほぼ全域が二次林で、大径木は少なく、まだ若い段階の森林といえます。

散策路も2本整備されています。南側の通称「ホオノキ散策路」は植生が豊かで、春にエゾエンゴサクが咲いたり6月に開花するベニバナイチヤクソウ小群落があったりと、自然度が高い場所です。北側の通称「アカイタヤ散策路」には公園内と行き来できる小道があります。

中央部分にある小さな開地は通称「お寺跡地」、ここは1960年代までお寺があった場所で、周辺には井戸の痕跡や自然のものとは思えない石などが今でも残っています。

敷地内には池が3つあり、ひとつは湧水が出ていて、エゾサンショウウオやエゾアカガエルが春先に産卵に訪れ、地元の小学生が「ふしぎ池」と名づけて生き物の保全活動が続けています。そのすぐ横の池は夏になると水が枯れてしまいます。そしてもうひとつ「赤い池」、この水は鉄分が含まれて赤っぽく、冬でも凍らない池です。

小さな緑地ですが、藻岩山周辺の自然が凝縮されたような場所で、楽しく気持ちよく散策でき、自然観察や撮影にもよい場所です。



旭山野鳥メモ③コゲラ

コゲラ Japanese Pygmy Woodpecker *Dendrocopos kizuki* キツツキ目キツツキ科

1年中見られ旭山でもごく普通。ただし5月下旬から6月の繁殖期だけは観察機会が激減する。日本全国47都道府県に生息し9亜種が存在するが、南に行くほど体は小さく色は濃くなり、札幌と東京でもだいぶ違って見える。北海道の亜種は体つきがころっとしている。

日本で一番小さなキツツキ。日本にゆかりのある鳥で、英語名にも"Japanese"と入り、学名の後半＝種小名の"kizuki"はその昔大分県杵築(きづき)で採取された標本が学術的な標準とされたことによるもの。

他のキツツキ同様雄の後頭部に赤い羽があるが、他とは違い赤い羽は小さく周りの羽に隠れて見えないこともある。だから写真でも「雌」とも断定できない、困ったものだ。

その赤い羽は冬の間に多少目立つ。カモ類も雄の冬羽は目立つ色だが夏には色があせたり雌同様の地味な色になったりするのと同じことかもしれない。コゲラの写真に赤い羽を見つけるとわくわくしてしまう。

警戒心が薄く近くに寄れ、木の幹で少しずつ動き観察・撮影しやすい鳥の筆頭格。ありがたい野鳥だ。



2022年1月の野鳥トピックス

※下記の特集記事もご参照ください

- ・シマエナガ: 例年1月はよく見られる時期ですが、今年は森の家周辺で見られない日もあり、例年より観察機会は少なくなっています
- ・キクイタダキ: 観察機会は少しずつ増えてきています
- ・ミソサザイ: 園内の笹のある斜面でときどき見られています
- ・キバシリ: 西側エリアから都市環境林でときどき見られています
- ・ウソ: 観察情報が増えてきました ヌルデの種子を食べるシマエナガー
- ・カケス: 12月は観察情報ほぼゼロでした
- ・ヤマゲラ: まだ観察情報は少ないですがこれからです
- ・クマゲラ: 園内の近くでの観察情報はまだ少ないですがこの先増えるものと予想されます



冬の鳥が少ない

野鳥愛好家の間では、今冬は冬の鳥が少ないと話題になっています。

札幌市内近郊はどこでも似たような状況であり、インスタグラム等ネットで野鳥情報を見ると、秋に北から渡って来るいわゆる「冬鳥」が少ないと人々が感じているのは全国的なことのようです。

旭山でも、マヒワとベニヒワはで昨冬は100単位で見られていましたが、今冬マヒワは数羽いるだけ、ベニヒワはいません。シメに至ってはこんなに少ない年は初めてというほどでたまに見られるだけです。

ツグミは例年なら12月に園内いっどこにいても声が聞こえるほど増えますが、今冬は増えた時期はなく、数羽がときどき見られるだけの状態が続いています。ヒレンジャクは今冬30羽以上いた日もありましたが、数羽の群れが日によって見られたり見られなかったり。

冬鳥については、2021年は地球全体で気温が高く、繁殖地であるロシアなど北方圏も気温が高くて餌となる資源が豊富にあり、冬鳥がほとんど渡りをしていない可能性が一部で指摘されています。

(左写真は昨冬のベニヒワ雌)



一方、基本的に留鳥であるカラ類も少ないと感じられ、シマエナガも旭山記念公園では昨年より出会う頻度が下がっています。

留鳥については先月号でお伝えしたように一部の樹木で種子のなりが悪いなど食糧事情が変わったことや、昨年の雛の育ちが悪かったなども考えられますが、詳しくは分かっていません。

こんなにも鳥が少ない冬は初めて、ひとまず今春、来冬、さらにその後に影響がないか心配です。「沈黙の春」なんて要りません。

「アカゲラ通信」 第97号 2022(令和4)年1月11日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時～16時) FAX 011-200-0351



公式サイト